

昨年の感謝デーの様子を御覧下さい！



今年は第10回の記念総会です！

7月6日(土)午後6時、
総会・懇親会を「百楽」で
開催します。上本町駅 北へ
徒歩1分：天王寺区上本町6-2-31
TEL.06-6768-2221 百楽本店 宴会場

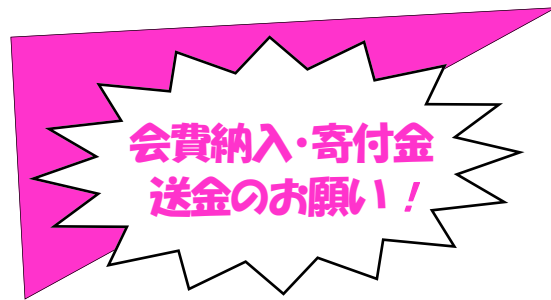
懇親会費:7,000円 は、当日、会場受付にて現金でお支払いください。但し、卒業後4年間:高62,63期は、4,000円、高64,65期は2,000円で優待いたします。同封の葉書にて出席をご連絡ください。追加の出席もOB・OG会の事務局宛メールにて受け付けております。多数のご参加をお待ち申し上げます。

諸般の事情で 今年は **感謝デー** を開催致しません。全OB・OG(約650名)の皆様へ会報を送付するのは、印刷・通信費の負担が重く、本号までに止める方針を第10回総会にお諮りします。今後、送付費の不要なWEB掲載を主とし、希望者のみに郵送する方針について ご意見を伺いたくOB・OG会の事務局: kozu.handball.ob.og@gmail.com 宛へメールください。WEB掲載は、**ブログ** <http://kozu-hand.blogspot.com> 及び **ホームページ** <http://kozu.handball.iinaa.net/> **Facebook** <http://www.facebook.com/KozuHandball> をご覧ください。10周年記念企画としてクラブ誌を編集致したく、お写真など情報を事務局へお寄せください。

2012年度 決算

2012/04/01~2013/03/31

繰越金収入	2011年度 繰越金	125,433
年会費収入	3,000×66名	198,000
寄付金収入		226,560
総会費収入	7,000×24名	168,000
総会支出	会場払	▲189,950
現役補助費	チーム登録料、ボール等	▲114,300
会報費	印刷・発送費等	▲100,710
通信費	はがき、切手他	▲81,550
部誌製本費	部誌復刻版印刷・発送費	▲66,308
雑費	印刷用紙、振込手数料他	▲5,830
雑収入	銀行利息	25
差引残高	次年度繰越	159,370



当会を運営するためには皆様の会費収入が不可欠です。また、現役補助費(チーム登録料等)を充実させるには寄付金も必要ですので、御協力をお願い申し上げます。

趣旨に賛同頂き 2013年度会費 3,000円と 寄付金の納入を銀行振込でお願い致します



三菱東京UFJ銀行 生野支店
 普通預金No.3999316
 口座名「高津高校ハンドボール部OBOG会 会長 川上貴司」

【事務局】〒542-0074 大阪市中央区千日前1-4-8 千日前Msビル7階
 光洋商事株式会社内 川上貴司 Tel.06-6213-1901 Fax.06-6213-4903
 E-mail: kozu.handball.ob.og@gmail.com



第9号

発行日 2013年5月1日

大阪府立高津高等学校ハンドボール部 OB・OG会会報

高津ハンドボール

第9回 OB・OG会 総会 開催される



2012年7月14日 於 高津高校 同窓会館前、百楽 本店

本年(2013年)の 第10回記念 総会と懇親会は、
7月6日(土) 夕方 6時 ~ 8時、百楽 本店
(近鉄 大阪上本町駅 北へ徒歩1分) で開催します。



☆ 半世紀前の思い出・点描 ☆

今中 啓旦

私は現在80歳の老人である。私が高津高校に勤務したのは、1957年4月1日から1981年3月末までの24年間である。その間ずっとハンドボール部の顧問であり続けた。私は英語担当の教員である。それまでは、ハンドボールとは全く縁のない生活を送っていた。足を使ってゴールに蹴り込むのが「蹴球」つまりサッカー、手でシュートするのが「送球」つまりハンドボールである、というくらいの知識しか持ち合わせていなかった。実際にプレイしたことは一度もなかった。

では、そんな私がどうしてハンドボール部の顧問になったのか、その事情はこうである。高津に赴任した4月、2年生の英語の授業を終えて廊下に出ると、当時ハンドボール部のキャプテンだった石崎寿夫君が近づいて来て、唐突に「顧問になってください」。その時の私は24歳。石崎君にしたら、この若くて大きな声で話す元気そうな教師ならいいのではないかと、というくらいの思いがあったのだろう。そこで私は一瞬躊躇したが結局引き受けてしまったのである。いづれはどこかのクラブ顧問にならねばならないと言われていたという事情もあった。授業と授業の合間のわずか10分間の休憩時間中での、廊下での立ち話の即断であった。

その年の夏休み中の合宿の厳しいトレーニングは忘れられない。先輩が入れ替わり来校して指導するのである。厳しい基礎練習である。歯を食いしばり顔をしかめてがんばる選手たち。小休止の時間には、じっと涙を堪える者がいる。所かまわず寝転ぶ者もいる。合宿中の教室に戻ろうと階段を登るにも痛む脚を引きずり顔を歪める者もいる。先輩は、後輩たちを鍛えて、より強いチームにしたい一心に、入れ替わり立ち代わり来校してくれるのである。しかし、現役生の心中を推察するに、もう堪忍してくださいよ、と叫んでいるように、その苦渋に満ちた顔、顔、

顔から伺い知ることができる。ハンドボールの実体験がなく、ただ見守っているだけの顧問である私の一番辛い部分である。夏の教室での宿泊環境は劣悪である。教室の床にごさを敷いて、その上で布団や毛布にくるまってごこ寝をするのだが、真夏の教室は蒸し暑い。私などはなかなか眠れない。それでも、くたくたに疲れている選手たちは、すぐに寝入ってしまう。合宿中の唯一の楽しみである食事は、地下の学校食堂でクラブごとに固まっていた。

そんなしんどい合宿中、私がかたま一瞥し、今も記憶に残っている一つのシーンがある。それは、教室で皆がゴロゴロ寝転がりながらくろいでいる時、ひとり教室の腰板にもたれて、両脚の上に教科書を開いている者がいた。キャプテンの石崎君の姿だった。えらいヤツだなあ、と思った。彼はキーパーなので、練習も集中的に特訓を受けていたので、疲労も極度に貯まっていたことだろうに、である。

合宿が明けて、練習が再開される頃には、皆んなが元気滂刺、身が軽くなり、軽快に跳び廻るのだから不思議である。それだけ全身の筋力が強くなり、技術も向上しているためだろう。ところが、他校との対校試合となると、事情はきびしい。相手も鍛えられている。当時は、ハンドボールでは、公立校が強かった。強い学校にはハンドボールが専門の顧問が指導に当たっているところが多かった。高津では、技術指導はすべて先輩頼みであった。それでも、高津は強かった。府内では、いつもトップグループにいた。近畿大会にも何度か出場した。試合は土曜日・日曜日や休日に行なわれるので、選手は辛かったことだろう。しかし、どの試合にも必ず先輩たちがやって来て、指導・助言・声援してくれた。有り難いことである。公式戦には専任の教員の付き添いが義務づけられていたので、試合のたびに休みの日がつぶされることは、私には本当に辛いことではあった。ある年の女子ハンドボール部の公式戦に、いつものように付き添って行った。試合は阿倍野区にある大谷高校のグラウンドで行われた。その試合にも、男子も女子も両方の先輩たちがたくさん来てくれていた。試合中も、選手の一挙手一投足に声援・助言が賑やかに乱れ飛んでいた。突然、その試合のレフェリーが試合を中断させて、こちらに向かって一喝した。「高津ベンチ、やかましい!」。その時のあのレフェリーの赤い顔と大きな声。今でも忘れられない。

これには後日談がある。1981年4月に、前述したように、私は高津を退職した。大谷女子短期大学英語英文学科へ転出したのである。48歳だった。当時のキャンパスは、大谷高校と隣接していた。正門を入るとすぐ高校のグラウンドがある。ある時、たまたま、あの時のあのレフェリーが、ハンドボール部員の指導をしているのが目に入った。あの試合の相手校の校名も、そのスコアも忘れてしまっていたが、あの顔は忘れられない。事務室で名前を確かめた。それは保健体育科の木村方紀先生であることが判明した。私よりだいぶ若い先生である。後日、高校へ出向いて行って、木村先生にその件について話すと、「そんなこと、ありましたか?」と言って頭を掻きながら大笑いされた。

強いチームには良い指導者がいる。高津は顧問が素人であったが、先輩が代行して指導してくれた。しかし、ついに高津にもハンドボール部の先輩で、現役時代はポイントゲッターとして活躍した太田寛人君が、母校の保健体育科教諭として赴任し、クラブ活動ではハンドボールの指導に当たってくれている。とりわけ、女子ハンドボール部は強くなっていると聞いている。嬉しいかぎりである。しかし、最近は教員の勤続年限が厳しく言われ、この太田先生もそろそろ転出するかもしれない、とのことである。

最後に、今中道夫君について言及して終わりにしたい。昨年の夏に、ハンドボール同窓会の川上貴司会長から電話があり、「今中道夫先輩を覚えておられますか。同窓会へ出席されて、今中先生のことを尋ねておられました」とのことだった。私と同姓だし、私が担任した学年の生徒だったから、もちろんよく覚えている、と答えた。私は生徒から「ケイタン」と呼ばれていた。幼少からの呼び名は「ヒロアキ」であるが、高津ではこのように正しく呼ばれたことは一度もなかった。私は「ケイタン」と呼ばれることは仕方がないことではあるが、今中道夫君までもが、からかわれて「ケイタン」と同級生から呼ばれていたのである。気の毒だと言おうか、申し訳なく、すまない気持ちでいっぱいであった。川上会長からの電話で瞬時にそのことを思い出したのであった。道夫君にとっては、迷惑なことであったにちがいない。

高津で私は5回卒業生を送り出し、最後の6回目のサイクルでは、1・2年生と持ち上がった後、高津を去ることとなった。その間、ハンドボール部とも関わり続けた。思い出は尽きることはない。



(2013年3月記)